

「協働」を重視し、全ての児童が主体的に取り組む体育授業

実践研究のねらい aim

運動の得意不得意、障害の有無に関わらず、全ての児童が運動や自分の健康に対して前向きに取り組めるようにするために、体育学習の在り方について研究を深める。特に、主体的な学びを支える児童のモチベーションを高める環境づくり、児童が前向きになれる教師の仕掛けや支援の在り方を考え、実践する。

授業づくりの考え方 thinking

以下の視点から授業づくりを考える

- ①児童生徒が「何に困っているのか」を見取る
- ②「困っている原因」を考える
 - ・「人」が原因なのか？
 - ・「もの」が原因なのか？
 - ・「ルール」が原因なのか？
- ③困っている原因に合わせた体育授業を実践する
 - ・「人」の工夫(友達と学び合いができるようにペアやグループの配慮を行う)
 - ・「もの」の工夫(体育で使う用具の工夫をする)
 - ・「ルール」の工夫(ゲームのルールの工夫をする)

指導・支援の工夫 devise

単元 5年生：ボール運動(ネット型)

時数	1	2・3	4	5・6	7・8	9・10
学習活動	オリエンテーション ・ソフトバレーボールの行い方を知るとともにルールや心構えを確認する	・2対2のゲームを行い、楽しさを感じたり課題を見つけたりする。 ・必要な役割を見つける	・3対3のゲームをして、2対2と同じところや違いを見つけ、点を取るための学習課題を作る	・アタック練習を通して、攻撃をするときに大切なことを考える	・シットイングバレーボールを通して、守備をするときに大切なことを考える	・学んだことを生かして、大会(3対3)を行う

活動概要及び工夫点

「協働」を重視した活動を研究の重点とし、障害の有無に関わらず運動有能感の低い児童も前向きに取り組む体育学習を行えるよう、環境づくりや支援を行う。

『もの・ルールの工夫』

- ・ボールやネットの高さなどを変えられるゲーム環境を整える
- ・車いすを使用する児童も対等にゲームができるようにシットイングバレーボールを取り入れたり、歩行器を使ってゲームをしたりする



ソフトバレーボールを使用したシットイングバレーボールの様子

単元

6年生：ボール運動(ゴール型)

時数	1・2	3・4	5・6・7	8・9	10・11
学習活動	オリエンテーション ・スライドサッカーの行い方を知る。 ・ルールや心構えを確認する。 ・試しのゲームを行う	・リーグ戦を行いながら、ゲームに親しむ	・リーグ戦でのデータから、得点につなげるためのポイントを見つける	・自分たちのチームの課題を見つけ、解決策を考える	・学んだことを生かしてリーグ戦を行う

活動概要及び工夫点

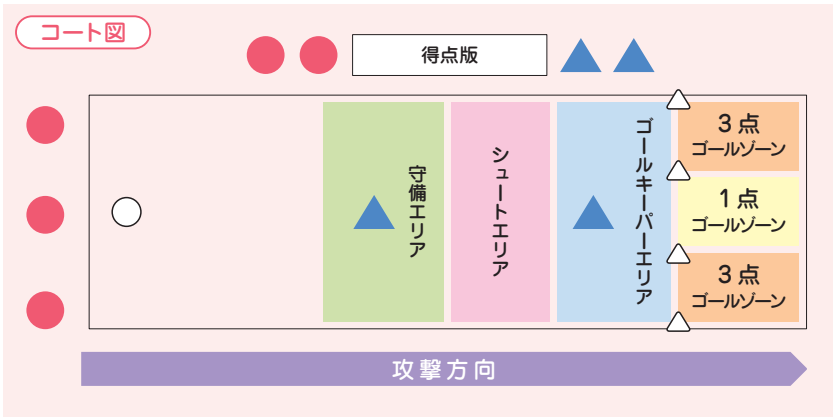
足を使っでのボール操作は難しく、ボール運動が苦手な児童にとってはハードルが高くなってしまいますので、特に「もの・ルールの工夫」について環境づくりや支援を行う。

『もの・ルールの工夫』

- ・球形のボールを使用するのではなく、パック型のボールを使用する。
- ・攻守切り替えではなく、攻撃一方通行型にし、守備者が動けるエリアも限定する。



ものの工夫(パック型のボール)、ルールの工夫(攻撃一方通行型のルール)



●=攻撃する人 ▲=守備をする人 △=三角コーン ○=パック型のボール
コート外の●▲=控えメンバー

成果と課題 results & tasks

成果

- ・「ソフトバレーボール」でシットイングバレーボールを取り入れ、行動範囲が制限される中でゲームを行い、守備位置の重要性に気付くための支援として取り入れることで、ソフトバレーボールの技能獲得と向上にもつながった。
- ・「スライドサッカー」で「もの」「ルール」の二つ観点で工夫したことにより、単元を通してボール操作が苦手な児童がゴールを決めようとする意欲的な姿が見られ、学級全ての児童がゴールを決めることができた。
- ・単元終了後に2回目の運動有能感に関するアンケートを実施したところ、1回目で友達への受容感に関わる項目が低い値を示した児童に改善が見られた。
- ・教材の簡易化やねらいをもった支援等によって、苦手意識のある女子児童がゴールを決める度にガッツポーズをする姿など印象的な場面がたくさん見られた。

課題

- ・「〇〇障害だからこうだ」という障害の枠に児童をはめ込むのではなく、当該児童生徒の発達の段階や行動の様子等を把握し理解した上で、授業の工夫を行う必要がある。
- ・当該学年の指導内容(何を学ばせるのか)、そのための指導の工夫について教師が、その趣旨を踏まえた上で教材を簡易化するなど、指導方法の工夫については更なる研究や取り組みの工夫が必要である。